

# 第1回 海事産業の次世代人材育成推進会議・幹事会

## 議 事 次 第

日 時：平成19年10月22日（月）10：00～

場 所：中央合同庁舎第2号館低層棟2A2B

1. 海事局長挨拶
2. 推進会議・幹事会メンバー紹介
3. 国の取組みについての説明
  - ・ 今後の海事広報の進め方
  - ・ 海事広報の推進に関する20年度要求について
4. 推進会議設立趣旨説明
5. 推進会議構成団体の取組み内容紹介
6. 基本方針（案）の検討・決定
7. 今後のスケジュール
  - ・ 19年度行動計画策定に向けての進め方について議論
8. その他

### 【配付資料】

資料1：推進会議・幹事会メンバー一覧

資料2：・ 今後の海事広報の進め方

・ 海事広報の推進に関する平成20年度要求について

資料3：推進会議設立趣旨（案）

資料4：推進会議構成団体の取組み内容一覧

資料5：基本方針（案）

資料6：今後の進め方（案）

## 次世代人材育成推進会議 構成メンバー

分野	組織名	推進会議
行政	国土交通省	海事局長 春成 誠
	海上保安庁	総務部長 柚木浩一
海運	(社)日本船主協会	理事長 中本光夫
	(社)日本外航客船協会	理事長 中本光夫
	日本内航海運組合総連合会	理事長 中西基員
	(社)日本旅客船協会	理事長 本田隆文
船員	(社)日本船長協会	会長 森本靖之
	(社)日本船舶機関士協会	会長 大内博文
	全日本海員組合	副組合長 大内教正
造船・船用	(社)日本造船工業会	常務理事 緑川好浩
	(社)日本中小型造船工業会	専務理事 萩原廣治
	(社)日本船用工業会	専務理事 山下 暁
海洋レジャー	(社)日本舟艇工業会	専務理事 釣谷 康
	(財)日本海洋レジャー安全・振興協会	理事長 久野彦四郎
	(財)マリンスポーツ財団	理事長 金子光夫
船員教育	(独)航海訓練所	理事長 湯本 宏
	(独)海技教育機構	理事長 小堀欣平
	(財)海技教育財団	理事長 宇多一二
	東京海洋大学	海洋工学部長 藤田稔彦
	鳥羽商船高等専門学校	校長 山田猛敏
青少年育成	(財)ブルーシー・アット・グリーンランド財団	専務理事 広渡英治
	(社)日本海洋少年団連盟	専務理事 青木 稔
	(財)日本海事科学振興財団	理事長 森田文憲
海事思想	(財)日本海事広報協会	理事長 豊島 達
	(財)日本海事センター	理事長 浅見喜紀

## 次世代人材育成推進会議幹事会 構成メンバー

分野	組織名	推進会議幹事会
行政	国土交通省 総合政策局	海洋政策課長 鈴木昭久
	海 事 局	総務課企画室長 市岡 卓
	海上保安庁 総 務 部	政務課企画官 高田陽介
海 運	(社)日本船主協会	常務理事 井上 晃
	(社)日本外航客船協会	常務理事 安田憲一
	日本内航海運組合総連合会	第一事業部担当部長 山本廣
	(社)日本旅客船協会	常務理事 眞鍋貞隆
船 員	(社)日本船長協会	総務部長 笠木義男
	(社)日本船舶機関士協会	専務理事 宮寺重男
	全日本海員組合	中央執行委員 (企画室・広報室担当)三宅隆
造船・船用	(社)日本造船工業会	企画部部长 寺門雅史
	(社)日本中小型造船工業会	総務部長 相本伸幸
	(社)日本船用工業会	総務部長 森山雅幸
海洋レジャー	(社)日本舟艇工業会	専務理事 釣谷 康
	(財)日本海洋レジャー安全・振興協会	振興事業部長 田崎正幸
	(財)マリンスポーツ財団	事業部長 岡村一臣
船員教育	(独)航海訓練所	教育部長 飯田敏夫
	(独)海技教育機構	事務局長 柳澤邦夫
	(財)海技教育財団	事務局長 八谷隆允
	東京海洋大学	乗船実習科長 矢吹英雄
	鳥羽商船高等専門学校	商船学科長 石田邦光
青少年育成	(財)ブルーシー・アント・グリーンソラント 財団	総務部長 古山 透
	(社)日本海洋少年団連盟	専務理事 青木 稔
	(財)日本海事科学振興財団	総務部長 六谷真市
海事思想	(財)日本海事広報協会	総務部長 立花有一
	(財)日本海事センター	企画研究部長 重富 徹

# 今後の海事広報の進め方

## 交通政策審議会海事分科会ヒューマンインフラ部会中間取りまとめにおける提言

### 1. 取り組みの進め方

- 青少年の海に関する興味を喚起し、感動とロマンを与えることを目的とした活動を強化し、青少年に海に関わる仕事へのあこがれ・夢を抱かせることを目指す。
- 幅広い海事関係者が連携し、海事産業の人材確保・育成に関する基本戦略を確立し、中央・地方の各レベルでの海事広報活動を戦略的に取り組む。
- 体験乗船や造船所見学の人数等事業推進のための数値目標を設定し、PDCAサイクルを確立する。

### 2. 具体的な施策等

- 産官学及び地域の連携により全国及び地域レベルでの協議会を形成し、戦略的かつ効果的な海事広報を推進
- 児童・生徒、青少年を主な対象とした練習帆船「日本丸」「海王丸」への体験乗船や市民クルーズ等の積極的推進
- 年間を通じ継続し、かつ、海の日、海の月間において集中実施する海事広報活動における戦略的な取り組み
- 船や造船所の見学会等海事産業全体による総合的なPR 等

## 中間取りまとめを受けた今後の対応

### 1. 国による主体的な取り組み

平成20年度予算要求

- 「海の日」中央事業：全国民に対し、海の大切さ、海事産業の重要性を訴えかけるような行事(シンポジウム)を開催
- 「海フェスタ」宣伝・広報強化事業：「海フェスタいわて」において子ども・家族連れを対象とした、海の仕事の魅力を分かりやすく理解できる「観客参加型イベント」を開催
- 「海の日」関連プロジェクト事業：日本各地において、海事広報事業を公募し、関係事業者、地方自治体、NPO等と地方運輸局が連携して地域の特性を活かした海事広報事業を展開

#### 「海フェスタ」

- ◆「海の月間」最大のイベントとして、毎年主要港湾都市において記念式典・フェスティバル等多彩なイベントを開催
- ◆20年度は岩手県大船渡市を中心とした市町で「海フェスタいわて」を開催

### 2. 民間による取り組み

- 船や造船所の見学会等海事産業全体による総合的な海事広報活動
- 「海の日」「海の月間」における海事広報活動

### 3. 地域としての取り組み

- 海事産業が集積する地域における年間を通じた集中的な海事広報活動の実施
- 「海フェスタいわて」を通じた海の大切さ、海の魅力についての発信

平成20年度予算要求

平成20年度開催

### 4. 関係者間の連携確保

10月下旬設置予定

- 国土交通省及び海事関係団体等により構成される「海事産業の次世代人材育成推進会議」を設置
- 「推進会議」において官民統一的な視点による基本方針、行動計画を策定し、効果的な海事広報活動を積極的に推進

### 5. 取り組みに当たっての留意点

- 「海の日」「海の月間」を重点期間とするが、できる限り年間を通じて関連事業の展開を図る。
- 特に児童・青少年を対象とした関連事業の充実を図ることとする。
- 国は、民間における取り組み状況について、あらゆる機会を活用し、最大限のPRに努める。特に、見学会、体験型イベント等参加者を動員する事業については、全体として数値目標を設定・公表して実施する。

# 海事広報の推進に関する平成20年度要求について

## 【現状】

- 「海フェスタ」は、昭和61年より22回を数え、開催地においては、今年開催の名古屋市は2回目の開催(20年度開催:岩手県大船渡市)
- 「海の日」「海の月間」関連の行事は、7～8月に各地でイベントが開催されているものの、関係機関・団体との連携が薄く、単発的でインパクトが弱く、青少年をはじめとする多くの国民に海への興味を喚起し、感動とロマンを与える点で必ずしも十分な成果を上げていない。
- 海洋基本法第13条においては、国としても「海の日」において国民の間に広く海洋についての理解と関心を深めるような行事を実施する努力義務を規定  
(第13条(海の日)の行事)、第28条(海洋に関する国民の理解の増進等)において、国の責務を明確化)

<要求額 56百万円(再掲含む)>

## 「海の日」「海の月間」における効果的な海事広報の推進

<20百万円>

海洋基本法及び交通政策審議会ヒューマンインフラ部会中間取りまとめを踏まえ、「海の日」「海の月間」関連行事の充実を図るため、20年度より新規事業の実施、既存の関連イベントの整理・統合や広報強化等により、効果的な海事広報を推進する。

「海の日」「海の月間」における海事思想の普及のためには、国、地方、民間の連携強化による国民的な運動の推進体制の強化を図りつつ、海事広報の強化を図っていくことが必要不可欠

## 事業のイメージ

### 「海の日」関連中央事業

<本省:5百万円>

○「海の日」に因んだイベント等を東京で開催

連携

連携

<開催地所管運輸局:5百万円>

### 「海フェスタ」の宣伝・広告強化

- 「海の日」関連行事の核として、宣伝・広告を強化しアピール
- 「セレモニー化」を改め、開催地の特性を活かした内容に改変

連携

<各運輸局計:10百万円>

### 「海の日」関連プロジェクト強化

- 地方運輸局を中心に、地域の特性を活かしたアイデアを公募し、「海の日」「海の月間」関連プロジェクトを実施
- 自治体、学校、造船所等と連携し、青少年等が海や船に親しむ機会の提供に力点を置いた海事広報を展開

上記プロジェクトを中心として、民間企業、公益法人等の協力を得ながら、全国各地で展開される「海の日」「海の月間」各プロジェクトの連携を図ることにより、効果的な海事広報を実施し、多くの人々が「海洋に関する理解」を深める機会を提供する。

## 海事広報一般に関する事業

<36百万円(再掲)>

上記以外の海事広報一般に関する事業として、地方運輸局と認定海事都市が認定海事都市における海事広報事業を共同実施することを内容として盛り込む「海事地域人材確保連携事業」(36百万円)の新設及び航海訓練所による練習帆船クルーズ事業の実施を検討

# 海事産業の次世代人材育成推進会議(仮称) 設立趣旨(案)

平成19年10月  
海 事 局

## 1. 趣旨

四面を海に囲まれる我が国の経済活動や国民生活にとって、資源・エネルギー等の安定輸送確保等の観点から、海は極めて重要な役割を果たしている。しかしながら、国民の祝日として「海の日」が制定されてから10年あまりが経過しているが、海に関する知見、体験等が必ずしも十分に国民に浸透しておらず、海からの恩恵が広く国民に認識されるに至っていない。

一方、海運業、造船・船用工業などの海事産業においては、少子高齢化社会の到来の中、労働力の確保の課題に直面している。特にこれらの産業においては、総じて労働力の高齢化の進行が顕著であり、特殊な技術や技能を有する次世代を担う若い人材の確保が喫緊の課題となっている。このため、各企業の採用活動や人材育成活動の強化はもとより、若年層の海への興味や関心を喚起する取組みが一層重要となっている。

このような状況の中、本年6月の交通政策審議会海事分科会ヒューマンインフラ部会中間とりまとめにおいては、海の魅力のPRを通じ青少年の海への関心を高めることが重要であるとされている。また、本年7月20日に施行された海洋基本法においても、国民の間に広く海洋についての理解と関心を深める取組の必要性が規定されている。

これらを踏まえ、「海事産業の次世代人材育成推進会議」を設置し、全国レベル及び地域レベルで、海の大切さ・海事産業の果たす役割について、青少年に感動とロマンを与えられるような強力な広報活動を一丸となって推進する。

## 2. 海事産業の次世代人材育成推進会議について

推進会議は、海事産業関係団体を含む幅広い海事関係者の中央組織から構成し、主として以下の活動に取り組む。

- (1) 海事分野の次世代人材育成のための広報活動の統一の方針の策定とこれに基づく行動計画の策定・推進
- (2) 地域の海事関係者が連携して取り組む海事分野の次世代人材育成のための広報活動の充実のための活動に対する支援(広報素材の提供、人材派遣、資金援助等)

## 3. 地域における取組みの強化について

地方運輸局が中心となって、地域の海事関係者、地方自治体、教育機関等への呼びかけを行い、相互の連携・活動の強化を図る協議会を設立し、海事分野の次世代人材育成のための広報活動を推進する。

## 次世代人材育成推進会議構成団体の取組み内容一覧

資料4

(注)各団体の取組みのうち、青少年をはじめ一般国民を対象とした事業から代表的なものを例示。

団 体 名	1 9 年 度 (実施中・予定)	2 0 年 度 (予定)
海上保安庁	・観閲式及び総合訓練	・観閲式及び総合訓練
(社)日本船主協会	・小学校教師対象社会科見学会 ・海運講習会 ・「船長、母校へ帰る」事業／「子供達に海と船を語る事業」	・小学校教師対象社会科見学会 ・海運講習会 ・「船長、母校へ帰る」事業／「子供達に海と船を語る事業」
(社)日本外航客船協会	・クルーズセミナーと船内見学会 ・クルーズ客船及び国際定期旅客船紹介パンフレットの作成・配布	・クルーズセミナーと船内見学会
日本内航海運組合総連合会	・内航船乗船体験制度 ・船員確保対策協議会活動補助 ・若年船員募集求人活動の為にポスター、パンフレット等の制作	・内航船乗船体験制度 ・船員確保対策協議会活動補助 ・若年船員募集求人活動の為にポスター、パンフレット等の制作
(社)日本旅客船協会	・旅行雑誌発行 (「るるぶ」の特集号)日本すみずみ船の旅  ・船から見る風景100選	・船から見る風景100選
(社)日本船長協会	・子供達に海と船を語る企画 「船長、母校へ帰る」	・子供達に海と船を語る企画「船長、母校へ帰る」
(社)日本船舶機関士協会	・第22回 「日本の海洋画展」 ・第18回人と海のフォトコンテスト「マリナーズ・アイ」 ・19年度京浜地区技術講演会	・第23回 「日本の海洋画展」 ・第19回人と海のフォトコンテスト「マリナーズ・アイ」 ・20年度京浜地区技術講演会
全日本海員組合		・海と海上労働に関する広報事業

団 体 名	1 9 年 度 (実施中・予定)	2 0 年 度 (予定)
(社)日本造船工業会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞の発行</li> <li>・Japan Shipbuilding Digestの発行</li> <li>・「子供たちと港を語る事業」における小学生向け造船業PR出張講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞の発行</li> <li>・Japan Shipbuilding Digestの発行</li> <li>・「子供たちと港を語る事業」における小学生向け造船業PR出張講演</li> </ul>
(社)日本中小型造船工業会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進水式の一般公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進水式の一般公開</li> </ul>
(社)日本船用工業会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「船用マイスター」認定事業</li> <li>・業界説明会</li> <li>・工場見学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船用講座</li> <li>・寄附講義</li> </ul>
(社)日本舟艇工業会 (財)日本海洋レジャー安全・振興協会 (財)マリンスポーツ財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨット・モーターボート体験乗船</li> <li>・スクール体験(ヨット教室)</li> <li>・プレイ体験(ウエイクボード・カヌー等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーターボート体験乗船</li> <li>・スクール体験(ヨット教室)</li> <li>・プレイ体験(ウエイクボード・カヌー等)</li> </ul>
(独)航海訓練所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般公開</li> <li>・セイルドリル</li> <li>・練習船見学会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般公開</li> <li>・セイルドリル</li> <li>・帆船体験乗船</li> </ul>
(独)海技教育機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海技施設等公開</li> <li>・練習船「海技丸」体験航海</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海技施設等公開</li> <li>・練習船「海技丸」体験航海</li> </ul>
(財)海技教育財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内体験航海</li> <li>・遠洋体験航海</li> <li>・海洋教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内体験航海</li> <li>・遠洋体験航海</li> <li>・海洋教室</li> </ul>
東京海洋大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海王祭</li> <li>・オープンキャンパス</li> <li>・第4回「夏休み！海鷹丸で海の科学を学ぼう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海王祭</li> <li>・オープンキャンパス</li> <li>・ホームカミングデイ</li> </ul>

団 体 名	1 9 年 度 (実施中・予定)	2 0 年 度 (予定)
鳥羽商船高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集巡回PR</li> <li>・中学校主催「進路説明会」</li> <li>・海洋体験教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集巡回PR</li> <li>・中学校主催「進路説明会」</li> <li>・海洋体験教室</li> </ul>
大島商船高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子サバイバルキャンプ</li> <li>・周防大島少年の船洋上</li> <li>・シニア大島洋上研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子サバイバルキャンプ</li> <li>・周防大島少年の船洋上</li> <li>・シニア大島洋上研修</li> </ul>
弓削商船高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校へのPR訪問</li> <li>・オープンカレッジ</li> <li>・福山みなとフェスティバルで練習船「弓削丸」体験航海実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校へのPR訪問</li> <li>・オープンカレッジ</li> <li>・福山みなとフェスティバルで練習船「弓削丸」体験航海実施</li> </ul>
広島商船高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海学 寺子屋学習・交流塾</li> <li>・「大和フェスタ」における本校練習船「広島丸」一般公開</li> <li>・海上教室・体験航海</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問</li> <li>・瀬戸内海学 寺子屋学習・交流塾</li> <li>・海上教室・体験航海</li> </ul>
(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B&amp;G体験クルーズ</li> <li>・B&amp;G海洋体験セミナー</li> <li>・水に賢い子供を育む年間型活動プログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B&amp;G体験クルーズ</li> <li>・B&amp;G海洋体験セミナー</li> <li>・水に賢い子供を育む年間型活動プログラム</li> </ul>
(社)日本海洋少年団連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第48回日本海洋少年団全国大会(千葉大会)</li> <li>・第36回我ら海の子展</li> <li>・カッター大会及びカッター・カヌー試乗会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本海洋少年団地区大会及び県大会</li> <li>・第37回我ら海の子展</li> <li>・カッター大会及びカッター・カヌー試乗会</li> </ul>
(財)日本海事科学振興財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シップ・ウォッチングin東京港</li> <li>・造船所見学会</li> <li>・海の男のギャラリートーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み！海鷹丸で海の科学を学ぼう</li> <li>・シップ・ウォッチングin東京港</li> <li>・海の男のギャラリートーク</li> </ul>

団 体 名	1 9 年 度 (実施中・予定)	2 0 年 度 (予定)
(財)日本海事広報協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海の日」「海の月間」関連行事広報</li> <li>・「海の道」・船の安全のパネル展と乗船体験会</li> <li>・海フェスタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海の日」「海の月間」関連行事広報</li> <li>・「海の道」・船の安全のパネル展と乗船体験会</li> <li>・海フェスタ</li> </ul>
(財)日本海事センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会「先進的海洋研究の我が国海運への活用可能性について」</li> <li>・特別講演会「今後の我が国の新海運政策について-『海洋基本法』施行の機会に-」</li> <li>・海事図書館 管理・運営事業</li> </ul>	

## 「海事産業の次世代人材育成推進会議」基本方針（案）

### 1. 取組みの考え方

- (1) 本基本方針に基づき、構成メンバーが一丸となって全国的に海の大切さ・海事産業の重要性を広報するための事業（以下「関連事業」という）を展開する。
- (2) 関連事業は、この基本方針に賛同する構成メンバー又はその会員が、自発的に実施する。
- (3) 「海の日」・「海の月間」を重点期間とするが、できる限り年間を通じて関連事業を展開する。
- (4) 特に児童・青少年を対象とした関連事業の充実を図ることとする。
- (5) 海の日の中核事業、海フェスタ等においては、国と民間が連携を図りながら一体として関連事業を実施する。
- (6) 国は、民間における取組みの状況について、あらゆる機会を活用し、最大限のPRに努める。特に、見学会、体験型イベント等など参加者を動員する事業については、全体としての数値目標を設定・公表して実施する。

### 2. 具体的な関連事業の内容

具体的な関連事業の事例としては、以下のようなものが考えられるが、各構成メンバーが、他のメンバーの取組み事例を参考にしながら、自由な発想により創意工夫を凝らした事業展開を図る。

#### 【事例】

- (1) 造船所、船のキャビンの見学会、帆船体験乗船などの体験型イベント
- (2) 海事関係の表彰の受賞者による講演、船長によるトークショー等海への理解を深めるイベント
- (3) 海洋レクリエーション体験、海を舞台にしたコンサート、海や船の写真展・絵画展など海に親しむ機会を提供するイベント
- (4) 副読本の作成など広報素材の作成・提供

## 次世代人材育成推進会議の今後の進め方（案）

当面以下のスケジュールを想定しているが、推進会議・幹事会での議論を踏まえ、必要に応じ見直すこととする。

- 第1回推進会議・第1回幹事会合同会議  
10月22日（月）開催

- 第2回幹事会  
（予定）11月20日（火）10：00～
  - ・19年度行動計画骨子案の提示・検討

- 第3回幹事会（12月）
  - ・19年度行動計画のとりまとめ・公表
  - ・20年度の取組みの進め方の検討

- 第4回幹事会（20年2月）
  - ・20年度行動計画案の提示・検討

- 第2回推進会議・第5回幹事会合同会議（4月）
  - ・20年度行動計画決定・公表
  - ・「海の日」「海の月間」行事計画案の検討

- 第6回幹事会（20年6月）
  - ・「海の日」「海の月間」行事計画案のとりまとめ

（年度内に推進会議・幹事会を適宜開催し、行動計画のフォローアップを行うとともに、取組みの進め方について協議）